

平成 26 年度  
運営状況に対する評価書

## 和歌山県立博物館評価(平成26年度事業評価用)

博物館長による評価	<p>和歌山県下の資料を広域的にかつ詳細に調査・研究し、それを展覧会につなげる方向性は全国的に評価されており、今後もこの姿勢を維持すべきである。小・中学校などとの連携、災害時の対応、ユニバーサルデザイン化などは成果をあげており、地域社会との協力連携もうまくいっているかに思われる。情報公開についての努力も認められる。入館者をより増すためによりいっそうの工夫が望まれる。</p>
評価部会による評価	<p>博物館の使命にもとづいて、業務が遂行され、一定の成果があがっているが、ひろく利用される社会教育施設として、また学校教育との連携いう側面から、さらなる改善が必要である。そのためには、博物館の努力や工夫だけでなく、広報・教育普及を専門に担当するミュージアム・エデュケーターの設置と、それに伴う予算措置が求められる。</p>

# 平成26年度 和歌山県立博物館評価様式

## 1. 資料収集・管理

博物館長による所見	限られた予算内での購入だけでなく、寄贈、寄託などの収集活動は比較的活発に行われている。将来は収蔵庫の容積ともかねあいを考えるべきである。また燻蒸については臭化メチル等に代わる方法の開発を他館と情報交換しながら進めるのが望ましい。
評価部会による所見	博物館として必要な資料収集機能は、十分果たしている。寄託資料の受入については、収蔵庫の容量を確保するため、一定のガイドラインの設定が課題である。

### ①資料収集

#### A. 資料収集方針に沿った資料の収集が行われたか。収集手続きは適正か。

平成26年度目標	資料収集方針に沿って、適正に資料を収集する。
自己評価	購入資料については、8月27日と2月20日に美術資料選定委員会を開催し、購入の妥当性及び価格について判断を仰いだ上、購入手続きを行った(計7,758,807円)。寄贈資料及び寄託資料については、資料収集方針に基づき、その都度担当学芸員が過去の実績や現況を慎重に判断した上、受贈・受託を行った。
課題・改善案	購入については、購入予算を維持し、とくに高野山・熊野関係の資料の増加をめざす。寄託は、防犯や防災上の理由によるものを優先的に行う。

#### B. 購入・受贈・受託数は何件・何点か。

平成26年度目標	新規購入・受贈・寄託件数・点数を把握する。
自己評価	26年度の新規購入資料は10件2,752点、寄贈資料は9件2,114点、寄託資料は34件66点を登録した。
課題・改善案	収蔵庫の収蔵残容量を把握し、収納器具・棚の増設についての方向性を整理する。

### ②資料保存

#### A. 資料の保存環境は適切か。

平成26年度目標	資料の適切な保存環境を維持する。
自己評価	収蔵庫及び展示ケース内については、24時間空調で管理している。虫菌害を防ぐために、害虫トラップの設置・回収を1か月単位で行った。また、外来の資料は、収蔵庫に配架する前にガス燻蒸(エキヒューム)を行うとともに、展示室・一時保管庫・搬入口・書庫などの区画で、ガス燻蒸(ブンガノン)を行った。このほか、収蔵庫・展示ケース内の空気環境調査等を行った。
課題・改善案	従来通りの保存環境の維持に加え、収蔵庫内の清掃を励行する。虫菌害に関して、ガス燻蒸以外の防除手法についても検討する。

#### B. 資料の点検調査を行ったか。

平成26年度目標	資料の点検調査を行う。
自己評価	寄託資料のうち、所有者が神社・寺院・団体のものについては、資料識別ラベルの更新を行い、それに合わせて員数の点検作業を行った。館蔵品については、台帳と架蔵棚番号との照合作業を行った。
課題・改善案	28年3月末が寄託資料預かり証書の更新の時期にあたるため、それに合わせて寄託資料の員数点検作業を行う。

#### C. 資料の修復は適切か。

平成26年度目標	適切な資料の修復を行う。
自己評価	館蔵品のうち、修理が必要なもの7件について、専門の業者による修理を行った。
課題・改善案	館蔵品については、近年購入した資料の中で、修理が必要なものについて、修理を行う。寄託品の中で、展示をすることの多い資料については、長期的な展示計画と関連付けて修理を検討する。

### ③資料管理

#### A. 収蔵点数は何件・何点か。

平成26年度目標	収蔵資料全体の件数・点数を把握する。
----------	--------------------

自己評価	館藏品は1,018件21,211点。寄託品は2,388件14,203点。(平成27年3月31日現在)
課題・改善案	年度末において、館藏品・寄託品の件数・点数の集計を行う。

#### B. 資料の管理(台帳、データベース)は適切か。

平成26年度目標	資料の管理を適切に行う。
自己評価	館藏品は、館藏品カードとエクセル形式のデータベース及びそれを出した館藏品台帳で管理している。寄託資料は、ファイルメーカー形式のデータベース及びそれを出した寄託品台帳、預かり証書の写しを綴じた台帳で管理している。これらの台帳・データベースは、学芸課で一元管理している。
課題・改善案	データベース上で未整理の項目があるので、それらの整序作業を行う。

#### ④資料の活用

##### A. 他機関へ資料を貸出ししているか。

平成26年度目標	適切な管理・輸送が可能な博物館施設へ資料を貸出しする。
自己評価	資料貸出件数10施設24件37点(主な貸出先:サントリー美術館・大阪市立美術館・和歌山市立博物館・今治市立村上水軍博物館・徳島県立博物館・静岡市美術館・龍谷大学龍谷ミュージアム)
課題・改善案	貸出にあたっての基準を明文化し、公表する必要がある。

##### B. 図書資料を収集し、研究や閲覧に供しているか。

平成26年度目標	必要な図書資料を購入・受贈によって収集し、活用する。
自己評価	26年度収集図書1,323点(うち購入44点)。すべて、図書台帳ファイルに入力済み。
課題・改善案	継続的に書庫内書架・学習室書架の整理につとめる。

##### C. 資料のデータを公開しているか。

平成26年度目標	資料のデータを公開する。
自己評価	ホームページで館藏品目録(一部画像付き)・学習室架蔵図書目録を公開している。
課題・改善案	館藏品の収集にあわせて、最新の情報になるようにする。

#### 2. 調査・研究

博物館長による所見	各学芸員がそれぞれの問題意識のもとで活発な調査・研究を行っており、全国的にも評価されている。
評価部会による所見	館の目的に沿った調査・研究活動が積極的に行われている。「災害の記憶」に関する資料の調査・研究は、先進的かつ適時・有効であり、特筆され、継続が期待される。個別の調査実績の総括的な記録・整序が十分なされていない点に改善すべき課題がある。

##### ①調査

##### A. 調査件数。使命に基づいた調査研究を行っているか。

平成26年度目標	使命に基づいた調査研究を行う。
自己評価	年間調査件数92件(展覧会関連資料調査・購入予定資料調査・依頼による調査)
課題・改善案	調査の概要を集積した実績記録を作成する必要がある。

##### B. 外部機関・団体と共同した研究を行っているか。

平成26年度目標	共同調査を行う。
自己評価	「災害の記憶」に関する資料の調査、駿河屋和菓子生産資料の緊急調査・保管、和歌山県北部地域所在中世史料の調査・研究
課題・改善案	和歌山県ゆかりの文化財について、計画的な調査だけでなく、緊急性のある調査にも柔軟に対応できるようにする。

##### ② 研究成果の活用

##### A. 展示・教育普及活動等に成果が反映されているか。

平成26年度目標	研究の成果を博物館の事業に反映させる。
自己評価	特別展・企画展の展示に、研究成果を反映させた。

課題・改善案	展覧会が研究の成果によるものであることを、積極的にアピールする。
--------	----------------------------------

B. 学術的公表(館研究紀要・報告書・学会誌等)がなされているか。

平成26年度目標	学術的公表(館研究紀要・報告書・学会誌等)を行う。
自己評価	『和歌山県立博物館研究紀要』第21号を発行した。
課題・改善案	さまざまな機会により、研究成果の積極的な公開につとめる。

3. 展示

博物館長による所見	特別展・企画展の質は高く、回数は多い。地域の特質を生かした継続的な展示は、他県ではあまり行われておらず、誇りうるものである。
評価部会による所見	調査・研究をふまえた、質の高い展示が行われている。来館者の趣向・意見をくみとるため、展示アンケート調査の回答率を高める工夫に課題がある。県外に收藏される和歌山県関係の資料の展示も、積極的に行うべきである。

①常設展

A. 展示更新回数。計画的な展示替が行われているか。

平成26年度目標	1回
自己評価	秋の特別展終了後、常設展復旧作業の中で、展示資料の点検及び一部資料の展示替えを行った。
課題・改善案	実物資料について、劣化防止のため、定期的に展示替えを実施する。レプリカ・模型・パネル等の劣化・破損状況について調査を行う。

B. 計画的な保守・管理が行われているか。

平成26年度目標	計画的な保守・管理を行う。
自己評価	秋の特別展展示替え期間中に、全面的なガラス清掃を行った。また、3月に常設展示ケース4本のうちの1本と、企画展示室の半分の飛散防止フィルム設置を施工した。また、情報・映像装置類の保守点検を行った。
課題・改善案	従来通り、保守・管理をおこなうとともに、飛散防止フィルム未施工箇所に施工する。

② 特別展・企画展

A. 展覧会のコンセプトは妥当か。

平成26年度目標	当館の使命に合ったコンセプトによって展覧会を開催する。
自己評価	特別展・企画展のいずれも、和歌山県ゆかりの文化財をテーマとし、文化財の保存についての認識を深めたり、鑑賞の仕方をわかりやすく伝えるということを主眼においた。
課題・改善案	調査研究の進捗状況や周年記念の行事などに合わせて、和歌山県ゆかりの文化財を基本テーマとして、展覧会を開催する。

B. 展示の構成・展示手法はどうか。

平成26年度目標	適切な展示の構成・展示手法をとる。
自己評価	特別展・企画展のいずれも、展示構成を明らかにするために、いくつかのコーナーに分けて、展示を構成した。動線は、展示資料に合わせて右から左へと進むものとした。
課題・改善案	来館者などからの反応・意見なども参考にして、よりよい展示手法の検討を行う。

C. 図録・パンフレット等を制作したか。

平成26年度目標	特別展について、図録を制作する(2種)。
自己評価	2本の特別展については、それぞれ展示資料をすべて収録した展覧会図録を刊行した。また、一部の企画展では、リーフレットを発行した。
課題・改善案	特別展については、従前通り図録を制作する。必要に応じて、予算の範囲内で、その他の刊行物も発行する。

D. 展示資料・来観者の安全は確保したか。

平成26年度目標	展示資料・来館者の安全を確保する。
自己評価	全ての展示資料は、展示ケース内に収納して、展示環境の保全と防犯に留意した。展示室内では、来館者の足元の明るさを確保するために、ダウンライトやスポットライトを活用した。

課題・改善案	展示資料の保全と鑑賞のしやすさの両立をはかる。地震に対する、資料・来館者の安全の確保について、より十分な対策を講じる。来館者の協力を得て、避難訓練を実施する。
--------	---

#### E. 開催後の反響はあったか。

平成26年度目標	開催後も反響が続くような展示とする。
自己評価	防災・防犯をテーマにした企画展については、新聞などでも継続的に取り上げられており、その後も一般の関心が続いている。
課題・改善案	地域に残された文化財が、展示後も地元の関心・保全への取り組みが継続するように協力する。

### ③ 館内小展示・出前展示

#### A. 何回企画を実施したか。要望はあったか。

平成26年度目標	3回実施する。
自己評価	「紀伊藩士の家に伝わった漱石の手紙」(6月21日～7月18日)・「和歌山県立博物館のあゆみ 1994-2014」(7月3日～12月7日)・「未来の紀州の画家たち」(9月11日～10月10日)・「さわれるレプリカとさわって読む図録-博物館展示のユニバーサルデザイン-」(12月19日～2月22日)の4本を文化財情報コーナー・エントランスホール・ギャラリーで開催した。
課題・改善案	エントランスホール・ギャラリーを小展示の空間として活用するため、出前展示と合わせて、県民・学校のニーズを調査する。

### ④ 入館者の傾向

#### A. 入館者の動向(年齢層・地域・情報入手手段等)を把握しているか。

平成26年度目標	入館者の動向を把握する。
自己評価	アンケート調査を通年実施し、特別展・企画展ごとに集計し、入館者の動向の変化を把握した。回答率7%。
課題・改善案	回答率が例年に較べて低い。基礎データとして使用できるよう、全体として10～15%の回答率になることをめざす。また、受付で記入を促すなどの工夫が必要である。

#### B. 入館者が展示に満足しているか。

平成26年度目標	利用者の満足度を測定する(アンケート調査を行う)。
自己評価	アンケート調査によると、満足度は、「大変良かった」・「良かった」を合わせて、88.7%(前年度85.9%)であった。
課題・改善案	「感想・意見」欄に記された事項のうち、是正すべきものは対応する。

## 4. 教育普及

博物館長による所見	地域・学校との連携事業を積極的に行っている。インターシップ受け入れが多いのは、将来の学芸員養成という意味でも評価できる。ボランティアは学芸員の負担にもつながるが、将来的にはもっと受け入れられるよう考えるのがよい。
評価部会による所見	学校や地域団体への働きかけが行われている。とくにユニバーサルデザイン化を通じての、諸学校への普及活動は特筆すべき水準を示している。なお、学校団体の見学利用時に、学校単位での満足度調査の実施や、学校に対する広報活動について、和歌山市立博物館との住み分けのため、県立学校への重点化をはかるという課題がある。

### ① 学校・団体の利用

#### A. 学校・団体の利用回数。

平成26年度目標	50校
自己評価	利用回数は46校(前年度47校)。
課題・改善案	学校・クラス単位で利用しやすいような教材(ワークシート)の開発につとめる。

#### B. 利用者数。

平成26年度目標	1,700人
自己評価	利用者数は1,749人(前年度1,608人)。
課題・改善案	学校・クラス単位で利用しやすいような教材(ワークシート)の開発につとめる。

C. 利用者が満足しているか。

平成26年度目標	利用者の満足度を測定する。
自己評価	学校団体の利用後において、満足度調査を測定することができなかった。
課題・改善案	学校団体の利用時における、満足度や要望調査の手法を研究する。

② 講演会・博物館講座

A. 講演会・博物館講座の回数。

平成26年度目標	5回
自己評価	特別展「きのくにの城と館」関連：2回、「夏休み講座」：3回、新館開館記念連続講座：7回、特別展「熊野」シンポジウム：1回、合計：13回
課題・改善案	特別展・夏休み企画展の際に行う講演会・講座を継続して行う。

B. 講演会・博物館講座の参加者数。

平成26年度目標	200人
自己評価	特別展「きのくにの城と館」関連：140人、「夏休み講座」：10人、新館開館記念連続講座：228人、特別展「熊野」シンポジウム：56人、合計：436人
課題・改善案	小学校高学年とその保護者向けに、「夏休み講座」参加者の増加をめざす。

C. 参加者が満足しているか。

平成26年度目標	利用者の満足度を測定する(アンケート調査を行う)。
自己評価	新館開館記念連続講座(7回分)と特別展「熊野」シンポジウムについては、アンケート調査を行った。満足度は、「大変良かった」・「良かった」を合わせて、前者が94.2%、後者が100%であった。
課題・改善案	継続して調査を行う。回答率が上がるようにつとめる。

③ 展示解説・体験学習・ワークショップ・見学会・関連行事等

A. 行事の回数。

平成26年度目標	展示解説37回・体験学習(講座)4回・見学会3回
自己評価	特別展・企画展合わせて展示解説38回、体験学習2回、現地見学会2回、現地学習会2回
課題・改善案	同程度の回数を維持する。

B. 行事の参加者数。

平成26年度目標	展示解説560人・体験学習100人・見学会100人
自己評価	展示解説674人、体験学習45人、現地見学会66人、現地学習会180人
課題・改善案	展示解説の人数が少ない時があったので、日時の告知を充実させる。

C. 参加者が満足しているか。

平成26年度目標	利用者の満足度を測定する。
自己評価	現地見学会及び現地学習会については、アンケート調査を行った。満足度は、「大変良かった」・「良かった」を合わせて、前者が100%、後者が85.4%であった。
課題・改善案	継続して調査を行う。回答率が上がるようにつとめる。展示解説の際の満足度調査については、調査の手法について検討する。

④ 県民との協業

A. ボランティア制度を導入しているか。

平成26年度目標	ボランティア制度を実施する。
自己評価	県教委と和歌山大学教育学部の連携協定に基づく、学生ミュージアムボランティア制度により、今年度は1人が参加した(4回)。
課題・改善案	ここ2～3年活動が低迷しているため、参加学生への連絡・勧誘の手法を検討する。また、博物館友の会を母体とするような、一般向けのボランティア制度について検討する。

B. 友の会・支援組織をつくっているか。

平成26年度目標	友の会などの支援組織をつくる。
自己評価	和歌山県立博物館友の会という任意団体を組織し、当館総務課内に事務局を置いている(会員数118人)。

課題・改善案	友の会の事業を積極的に支援するとともに、友の会からの人的補助(ボランティア)・経済的支援(図録等の出版補助)などの協力が得られるように要請する。
--------	--

### C. 地域・学校等と連携した事業をおこなっているか。

平成26年度目標	地域・学校と連携した事業を行う。
自己評価	県内文化財の保全や被災時の救援活動を円滑に行うことを目的とした、和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議を2月10日に設立し、その幹事館となった(加入機関数50)。
課題・改善案	文化財の保全・防犯・防災などの点を主眼において、連携した活動を行う。

### D. 観光資源として活用できる方策をとっているか。

平成26年度目標	観光資源として活用できる方策をとる。
自己評価	26年度に実施された「和歌山ディスティネーション・キャンペーン」に参加し、特別展「熊野」を観光資源として広報した。なお、特別展の広報物や年間展示予定などを、県内ホテル・旅行案内所・刊行者等へ送付し、旅行者への広報活動を行った。
課題・改善案	多くの観光客が訪れる和歌山城との連携について、手法の研究を行う。

## ⑤人材育成

### A. 学芸員実習・インターンシップ・教員研修などを受け入れているか。

平成26年度目標	学芸員実習・インターンシップ・教員研修などを受け入れる。
自己評価	学芸員実習受入人数1人、インターンシップ13校20人、教員研修(10年経験者研修2回20人、初任者研修(2年次)社会体験研修3人)
課題・改善案	従来通り、積極的に受け入れる。

## 5. 広報・情報発信

博物館長による所見	問い合わせ応答は丁寧である。ポスター、チラシ等をもっと活用する必要がある。和歌山城との連携を検討すべきである。
評価部会による所見	展覧会やイベントの情報発信は、標準的水準をクリアしている。職員が、広報手法・ホームページ運営にかかる情報高度化対応のための十分な研修機会を確保することが課題である。なお、当館の存在自体を戦略的に広報することも課題である。

### ①県民への直接的情報提供

#### A. 問い合わせ・質問(電話・来館等)へ対応しているか。件数。

平成26年度目標	問い合わせ・質問(電話・来館等)へ対応する。
自己評価	557件の問い合わせ・質問などに対応した。
課題・改善案	対応の件数・内容を把握し、重要なものについては、記録を作り、情報の共有化をはかる。

### ②メディアへの情報発信

#### A. 掲載件数。メディアへの広報・情報活動は行っているか。

平成26年度目標	メディアへの広報・情報活動を行う。
自己評価	報道機関への資料提供回数:14回・新聞(一般紙)への掲載件数:84回・コラム記事(『和歌山新報』):50回・テレビ・ラジオ番組への出演:4回
課題・改善案	メディアに対して、より積極的な情報提供につとめる。

### ③ホームページによる広報

#### A. アクセス件数・更新回数。

平成26年度目標	年間閲覧回数:31,000カウント・更新回数:8回
自己評価	年間閲覧回数:39,597カウント・トップページ更新回数:12回、主要なミュージアム検索サイトに、当館の基本情報を掲載するとともに、展覧会情報をその都度更新した。
課題・改善案	タイミングをはかりながら、内容の更新を行う。

#### B. コンテンツ・デザイン等を工夫しているか。

平成26年度目標	コンテンツ・デザイン等を工夫する。
自己評価	随時更新できる「博物館ニュース」(ブログ形式)により、当館の最新情報を双方向で提供している。

課題・改善案	トップページのデザインをはじめ、より見やすく、分かりやすい構造になるように検討する。
--------	--

#### ④印刷物の制作

##### A. ポスター・チラシ・館だより・カレンダー等による情報提供・広報活動は行っているか。

平成26年度目標	ポスター・チラシ・館だより・カレンダー等による情報提供・広報活動を行う。
自己評価	特別展については、ポスター・チラシ(カラー)を制作し、各方面へ送付した。企画展については、チラシ(単色刷)を制作し、館内で配布した。また、館だより・年間カレンダー・展覧会のご案内・教員向けパンフレットは、春の特別展の広報物発送と同じ便で発送した。
課題・改善案	より効果的な送付先・送付枚数の検討を行う。

#### ⑤協力活動

##### A. 他の団体・機関の活動に協力したか。

平成26年度目標	他の団体・機関の活動に協力する。
自己評価	県立博物館施設4館の合同企画(節電キャンペーン・風土記まつり)に参加した。収蔵写真資料の外部への使用許可・貸出:123件356点、講演の依頼:17件、委員等の委嘱:10件、執筆依頼:2件、学習室の貸出:10件、収蔵資料の特別閲覧:11件
課題・改善案	県立博物館施設4館の連携事業には、引き続き参加する。

#### 6. 組織と運営

博物館長による所見	学芸・総務が一体となって運営している姿勢は評価できる。アンケートを継続的にとっており、その結果を生かしている。館外研修はしかるべき理由があれば積極的に行うべきで、長期的な計画性が必要。
評価部会による所見	職員は、よく協力・分担しながら館運営に加わっている。職員(学芸員)が文化庁等の研修に計画的に参加するという課題があり、広報・教育普及担当の専門職員配置も検討課題である。なお、年間利用者数の目標値は、しかるべき設定の根拠を明確化することが望ましい。

#### ①組織・人員

##### A. 危機管理・防災体制についてマニュアルを作成、実地訓練等を行っているか。

平成26年度目標	危機管理・防災体制についてマニュアルを作成し、実地訓練等を行う。
自己評価	防災マニュアルは整備されている。防災放送設備の改修に伴い、防災放送の実地訓練を行った。
課題・改善案	火災・地震等を想定した避難誘導訓練は、毎年実施する必要がある。

##### B. 個人情報の保護・データ管理が適切に行われているか。

平成26年度目標	個人情報の保護・データ管理を適切に行う。
自己評価	県の定めた基準に基づいて実施している。
課題・改善案	館内の複数のネットワーク・端末上の電子データについて、管理・取扱上の指針を定める。

##### C. 館内外の研修に対して、職員が参加できる体制がとられているか。研修参加の実績。

平成26年度目標	館内外の研修に対して、職員が参加する。
自己評価	県教委の全職員を対象とした人権研修に職員が参加した。また、ホームページ管理者を対象とした研修に職員1名が出席した。
課題・改善案	文化財の取扱い・保存科学についての研修(文化庁・東京文化財研究所主催)を、全ての学芸員が受講できるような長期的な計画をたてる。

#### ②県民の期待に応える運営

##### A. 利用者数:当該年度の利用者数は何人か。

平成26年度目標	30,000人
自己評価	入館利用者数は34,171人(前年度28,067人)。
課題・改善案	夏休み期間中の中学生の利用が増加したが、小学生・高校生の利用も増加させる必要がある。

B. 利用者の満足度、ニーズなどの調査を行っているか。

平成26年度目標	利用者の満足度を測定する(アンケート調査を行う)。
自己評価	各展覧会・講演会・博物館講座・現地見学会・現地学習会では、アンケート調査を行った。
課題・改善案	引き続き、アンケート調査を行う。

C. 調査結果を反映した運営を行ったか。

平成26年度目標	調査結果を反映した運営を行う。
自己評価	アンケート調査や受付に寄せられた意見、博物館協議会での意見などをもとに、適宜改善を行った。
課題・改善案	様々な意見の集約・整理が必要である。

③情報公開

A. 使命、目標、計画などの方針を公開しているか。

平成26年度目標	使命、目標、計画などの方針を公開する(ホームページ等で公開する)。
自己評価	「博物館の使命」をホームページで公開している。
課題・改善案	26年度については実行できなかったが、当該年度評価様式(目標のみ)を、早い段階で当館ホームページに掲載する。

B. 実績の検討や評価を行い、その結果を公開しているか。

平成26年度目標	実績の検討や評価を行い、その結果を公開する(ホームページ・年報等で公開する)。
自己評価	『研究紀要』に収録された年報により、前年度(25年度)の実績を公開した。
課題・改善案	確定した段階で、26年度評価様式をホームページで公開するとともに、より詳細な実績の内容を、『研究紀要』に収録された年報により、公開する。

7. 施設・設備

博物館長による所見	災害時の避難の備えとともに、建物やケースの耐震化、展示台の免震化への対策を策定すべき。カビ対策は早めに考えておくべき。
評価部会による所見	建物・設備のうち、大規模な地震に対する安全性確保の対応については十分でない。今後、正確に安全性を再確認するとともに、来館者・職員・文化財の安全が十分でない部分については、予算的な措置を含め、必要な措置を講ずるべきである。

①施設設備の維持管理

A. 日常的な点検の有無、改修保全の実施、安全衛生の管理が行われているか。

平成26年度目標	日常的な点検の有無、改修保全の実施、安全衛生の管理が行われている。
自己評価	館内の重要な設備(空調・電気・警備など)については、日常的な点検が行われている。また、来館者の使用する部分については、日常的な清掃がほどこされている。
課題・改善案	引き続き、従来の設備点検・保守管理・清掃を行う。

B. 施設・設備の改修・整備が行われたか。

平成26年度目標	施設・設備の改修・整備を状況に応じて行う。
自己評価	火災報知器・防災放送システムの更新(近代美術館と合同)、空調機加湿排水修理、ターンテーブル修理、自動ドア修理、展示ケース飛散防止フィルムの施工、ドアの開閉機構調整、防蟻処理を行った。
課題・改善案	状況に応じて改修・整備を行うための予算(修繕料)を確保する。

C. 長期修繕計画を有しているか。

平成26年度目標	長期修繕計画を有している。
自己評価	空調機・配電盤・建物防水等にかかる、長期修繕計画が策定されている。
課題・改善案	計画に基づいて修繕実施するための予算要求を、継続的に行う。

②アメニティーの向上

A. バリアフリー対策、ユニバーサルデザイン等の対応が取られているか。

平成26年度目標	バリアフリー対策、ユニバーサルデザイン等の対応が取られている。
----------	---------------------------------

自己評価	平成22年度から、文化庁補助金により実施してきた「さわれるレプリカ」と「さわって読む図録」の制作事業が、平成26年度「バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰」の内閣総理大臣賞を受賞した。本年度も、「さわれるレプリカ」と「さわって読む図録」の制作を行った。また外国人利用者に対しては、入口ファサードに4か国語(日・英・中2種)の表記を加え、また、常設展のポイント解説用パンフレットを制作した。
課題・改善案	「さわれるレプリカ」作りを継続し、館内外での活用形態のバリエーションを増やして、利用促進をはかる。外国人来館者に対して、館内のサインを充実させるとともに、音声ガイドの多言語化をはかる。ハンゲルの表記・パンフレットを追加する。

B. 利用者に対する接遇は適切か。接遇の向上がみられたか。

平成26年度目標	利用者に対する接遇を適切に行う。
自己評価	県教委作成の「接遇マナー」にもとづいて、利用者に接遇した。
課題・改善案	アンケート調査等では、とくに改善を求める意見はなかったが、さらなる接遇の向上を図るための研修が必要である。

8. 財源

博物館長による所見	展覧会予算は、数年おきの大型予算とともに、現状を下まわらないようにすべき。バリアフリーや耐震化などの予算化も必要に思われる。
評価部会による所見	通常事業にかかる財源は、必要な水準が維持されており、さらに文化庁補助金の継続的獲得、その取り組みに対する総理大臣表彰は、財源上においても特筆すべき成果であった。今後、通常財源は少なくとも現状を維持しを、さらに館としての機能を今日的に維持するための大規模設備改修や免震にかかる予算の絶対確保が必要な課題である。

① 予算の確保

A. 入館料収入・当初計画に対する実際の収入達成率。

平成26年度目標	歳入5,742千円(当初見込)
自己評価	歳入5,416千円(決算額)、達成率94.3%
課題・改善案	当初見込額に達するようつとめる。

B. その他の収入の確保について。

平成26年度目標	県一般財源51,406千円(当初見込)
自己評価	県一般財源51,678千円(決算額)
課題・改善案	博物館の使命を果たすために必要な財源の確保につとめる。

C. 外部助成金等を獲得しているか。

平成26年度目標	外部助成金等を獲得する。
自己評価	文化庁平成26年度地域と協働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業：交付額6,244,282円、重要文化財等公開促進事業による勧告出品にかかる輸送経費補助(文化庁)：補助額549,540円 なお、平成22年度からこの補助金により行ってきた「さわれるレプリカ」と「さわって読む図録」の制作事業が、平成26年度「バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰」の内閣総理大臣表彰(最高賞)を12月17日に受賞した(表彰対象団体：和歌山県立博物館施設活性化事業実行委員会および和歌山県立博物館)。
課題・改善案	引き続き、文化庁からの助成金を中心に、交付金・外部助成金等の獲得につとめる。